

(3) 骨 材

新潟県

記事提供：(一社)新潟県砂利砕石協会

新潟県における平成28年度1月～3月期の骨材需給は、前年度同期と比較して、公共工事等の減少に伴って出荷量、生産量が共に減少し、県計では、出荷量で9%減、生産量で19%減となった。

地区別に前年度同期比で見ると、上越地区では、出荷量で3%増、生産量で11%減、中越地区は、出荷量で21%減、生産量で28%減、下越地区は、出荷量で7%減、生産量で19%減、佐渡地区は、出荷量で4%増、生産量で4%増となった。

平成28年度通期の累計では、公共工事など需要の減少に伴って、対前年度比、出荷量は10%減、生産量は14%減となり、3月末の在庫量は、2%増となった。

富山県

記事提供：富山県土石業協同組合連合会

富山県における平成28年度平成29年1月～3月期の骨材の需給は、前年同期に比べて、県全体では出荷量は7%減、生産量は9%減と、いずれも前年度を下まわった。また、前期(平成28年10月～12月期)比では、出荷量は24%減、生産量は24%減となった。

地区別の前年同期比では、東部地区は出荷量が10%減、生産量が9%減、西部地区においても出荷量が3%減、生産量が9%減と、両地区とも前年を下回る結果となった。

これは、東部地区では公共事業の進捗の遅れと事業量そのものの減少、さらに、一部地域において新たな砂利採取計画認可が事実上不可能となっていることが影響している。また、西部地区では公共事業量の減少の影響が大きい。

3月末在庫量は、前期末(平成28年度12月末)より、東部地区では1.5%減に、西部地区では7%減に、県全体では2%減となったが、東部の一部地域では在庫量が不足ぎみというところもある。

なお、平成28年度通期では、前年度に比し年間出荷量は、東部地区が19%減、西部地区が6%増、県全体では8%減となり、年間生産量は、東部地区が26%減、西部地区が2%増、県全体では13%減となり、この結果年度末在庫量の前年同期比は、東部地区9%減、西部地区19%減、県全体で10%減であった。

石川県

記事提供：石川県骨材協同組合連合会

石川県における平成28年度1～3月期の骨材(県内産)の需給状況は、前期までの低調傾向から一変し、降・積雪に悩まされる冬期にも拘わらず、加賀地区の陸砂利・川砂利と山砕石がともに大きく出荷を伸ばすところとなり、能登地区は振るわなかったものの、県計全体の出荷量は前年同期と比べて27%の大幅な増加となった。

地区別の出荷量の比較では、加賀地区は、陸砂利・川砂利が28%の増加となり、同地区の山砕石も29%の増加となったことから、総じて加賀地区の出荷量は前年同期と比べて28%の大幅な増加となった。しかし能登地区は今期も低調傾向が続き20%の大幅な減少となっている。なお平成28年度の県計全体における出荷の年間通期累計は前年度比で7%の増加となった。

その今期の出荷量の詳細を見ると、加賀地区の主要生産地である手取川扇状地産の陸砂利と川砂利においては、需要の主体となる生コン業者向け出荷について、大口需要の金沢地区は、昨年のJDI新築工事の特需の反動減が終了し、堅調な需要となったことから、前年同期比で10%の増加となった。また南加賀地区の今期は、北陸新幹線関連工事の特需が本格化してきたことにより大きく出荷を伸ばし、94%の大幅増加となった。なお、アスファルト合材業者向けの出荷は、前期の回復傾向は維持できず、今期は3%の減少となった。よって以上を合わせた今期の加賀地区における手取産陸砂利と川砂利の全体の出荷は、前述の通り前年同期比で28%の増加となった。なお平成28年度の加賀地区の手取産陸砂利と川砂利における出荷の年間通期累計は、今期の好調な需要によりマイナスから脱却し前年度比で4%の増加となった。

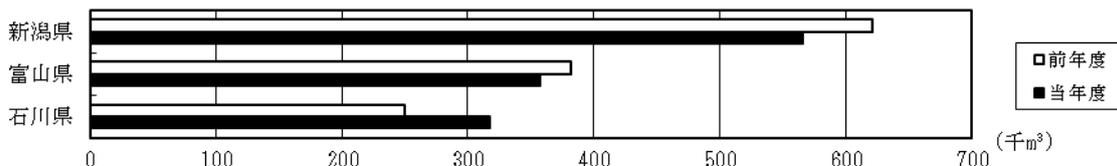
また、路盤材を主体とする加賀地区の山砕石は、年度当初からの増加基調を維持しており、今期も前年同期比で29%の増加となったことから、平成28年度の年間通期累計でも18%の増加を確保した。

一方能登地区の山砕石については、今期も前年同期比で20%の大幅な減少となり、これにより平成28年度の年間通期累計は前年度比で5%の減少となった。この地区の地場産業者の需要環境は、県外からの流入材に押され、依然として厳しい状況が続いている。

生産量については、通常は加賀・能登地区共に概ね出荷量に合わせた生産体制をとっており、今期は加賀地区の陸砂利で積み上げ在庫の整理が見られたものの、今期の県計は前年同期比で25%の大幅な増産となった。また生産量の平成28年度の県計全体における年間通期累計でも4%の増加となった。

在庫量については、加賀地区の陸砂利で積み上げ在庫の整理が進んだことから、県計全体の前年同期比は12%の減少となった。

骨材出荷量の推移（1月～3月期）



(単位：千m³、%)

県	地区	区分	平成27年度 年計	平成28年度				累計	
				4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月		
新潟県	上越	出荷量	▲13 722	0 183	▲4 217	0 222	3 93	▲1 715	
		生産量	▲12 734	2 199	▲3 226	▲6 228	▲11 55	▲4 708	
		在庫量	6 219	6 234	6 243	1 249	▲4 210	▲4 210	
	中越	出荷量	▲6 1,228	▲3 276	▲5 339	▲13 351	▲21 144	▲10 1,110	
		生産量	▲3 1,302	▲6 299	▲7 356	▲21 320	▲28 143	▲14 1,118	
		在庫量	27 354	22 377	17 394	7 363	2 362	2 362	
	潟	下越	出荷量	▲14 1,477	▲19 296	▲20 302	▲13 374	▲7 278	▲15 1,250
		生産量	▲12 1,608	▲30 297	▲23 335	▲6 370	▲19 288	▲20 1,290	
		在庫量	24 669	12 662	7 696	13 693	5 702	5 702	
	佐渡	出荷量	▲20 234	▲46 35	14 57	▲10 63	4 51	▲12 206	
		生産量	▲30 219	▲41 38	12 57	7 62	4 48	▲6 205	
		在庫量	▲25 47	▲19 50	▲21 50	▲6 48	▲2 46	▲2 46	
	県計	出荷量	▲12 3,661	▲12 790	▲9 915	▲11 1,010	▲9 566	▲10 3,281	
		生産量	▲11 3,863	▲17 833	▲12 974	▲11 980	▲19 534	▲14 3,321	
		在庫量	19 1,289	12 1,323	8 1,383	8 1,353	2 1,320	2 1,320	
富山県	東部	出荷量	▲16 1,003	▲27 191	▲20 225	▲16 230	▲10 168	▲19 814	
		生産量	▲17 1,034	▲30 185	▲35 202	▲25 213	▲9 160	▲26 760	
		在庫量	6 572	4 566	▲5 543	▲10 526	▲9 518	▲9 518	
	西部	出荷量	▲13 840	▲1 213	26 247	3 240	▲3 189	6 889	
		生産量	▲8 857	▲10 201	23 248	5 242	▲9 185	2 876	
		在庫量	34 67	▲5 55	▲11 56	▲2 58	▲19 54	▲19 54	
	県計	出荷量	▲15 1,843	▲15 404	▲1 472	▲7 470	▲7 357	▲8 1703	
		生産量	▲13 1,891	▲21 386	▲12 450	▲12 455	▲9 345	▲13 1636	
		在庫量	8 639	3 621	▲6 599	▲9 584	▲10 572	▲10 572	
石川県	加賀	出荷量	0 1,130	11 258	3 310	▲5 334	28 314	8 1,216	
		生産量	1 1,148	3 266	▲3 303	▲5 317	25 306	4 1,192	
		在庫量	12 174	0 182	▲10 175	▲10 158	▲14 150	▲14 150	
	能登	出荷量	▲4 22	20 6	0 5	▲14 6	▲20 4	▲5 21	
		生産量	▲15 23	20 6	0 5	0 8	0 5	4 24	
		在庫量	- 5	25 5	25 5	40 7	60 8	60 8	
	県計	出荷量	0 1,152	11 264	3 315	▲5 340	27 318	7 1,237	
		生産量	1 1,171	3 272	▲3 308	▲5 325	25 311	4 1,216	
		在庫量	12 179	1 187	▲9 180	▲8 165	▲12 158	▲12 158	

(注)・上段は前年同期との比較

・集計は、新潟県

会員115社のうち115社

富山県

会員86社のうち86社

非会員 1社のうち 1社

石川県

会員21社のうち21社 (委功工業者含む)

非会員16社のうち 9社

(本データは、陸砂利・川砂利及び山砕石の数量である。)